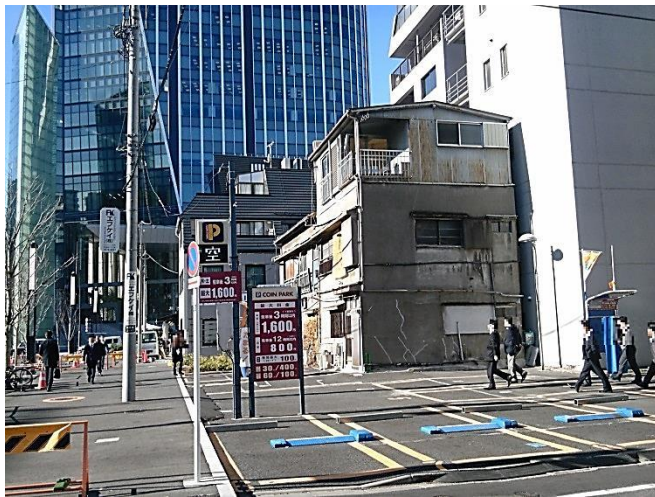


# 港区を歩く⑫ 新虎通り

今回は、環状2号線、通称「新虎通り」の虎ノ門ヒルズ・汐留間を歩きました。

この区間は、全エリアで歩道が工事中でした。現在はマーキングで暫定的に行われている歩行者と自転車の分離が将来的には構造的に行われるようです。

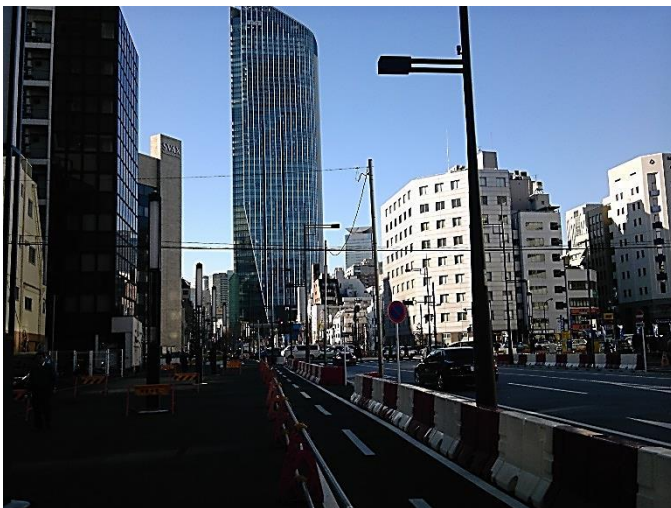
実験的な試みがいろいろ行われています。写真Bは港区の自転車シェアリング、次の写真Eは、東京都のジャンゼリゼプロジェクト。



**A** 超高層ビル、解体寸前の民家、コインパーキングという新虎通りの現在を象徴する景観。



**B** 港区が2014年10月から実証実験している「港区自転車シェアリング」。



**C** 現在の新虎通りの典型的景観。正面は虎ノ門ヒルズ。



**D** 自転車と歩行者が分離されている。



## 港区を歩く⑫ 新虎通り

浅野内匠頭終焉の地の碑を見つけました。1701年、ここにあった一之関藩(岩手県)田村右京太夫の上屋敷で切腹しました。歴史ある町です。

「新虎通り」から道路1本、2本くらい入ったエリア。再開発は、思ったよりも行われていませんでした。写真Gは、愛宕1丁目(慈恵大学北側)のやや大型の再開発。隣接する2つのブロックで同時に行われていました。

その近くには、なんとも懐かしい一角が残っていました。



**E** キーコーヒーのオープンカフェ。東京都建設局の「東京シャンゼリゼプロジェクト」認可第1号とのことです。



**F** 浅野内匠頭終焉の地。



**G** 新虎通りの南側。愛宕1丁目の再開発。奥のビルも立て替え中・



**H** この1画だけがレトロな雰囲気でした。

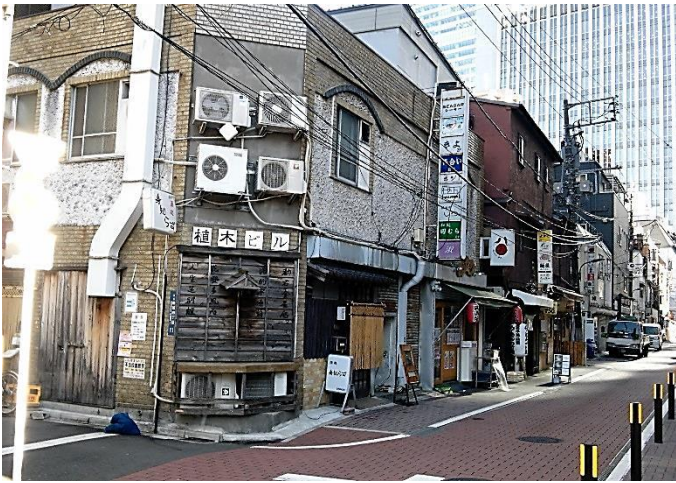


# 港区を歩く⑫ 新虎通り

JRのガードを境に、新橋側と汐留側では雰囲気が一変します。

ヒューマンスケールの飲食店がところ狭しと立ち並ぶ新橋側が「ケの空間」とすれば、超高層ビルが立ち並ぶ汐留側は「ハレの空間」と言えるでしょう。その境界には二つの空間を画するように「日比谷神社」がありました。

撮影日：2015年1月13日



**I** 新橋駅から続く飲食店街の東端。こうした景観も次第に右のJのように変わっていくのでしょうか。



**J** 高層ビルに入った飲食店とその前のウッドデッキの広場。



**K** 巨大な空間スケールで造られた汐留地区。



**L** 新橋と汐留の境に立つ日比谷神社。